

平成 27 年度幼児に関する歯科保健行動調査結果の概要

1. 調査目的

宮城県では、歯と口腔の健康づくりを推進するため、平成 23 年 10 月に宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画を策定し、ライフステージごとに、達成指標を設定しており、乳幼児期の達成指標としては、① 3 歳児の一人平均むし歯数、② 3 歳児におけるむし歯のない人の割合、③ 3 歳児までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある人の割合、④ 3 歳児の間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ人の割合の 4 つを設定している。

これらの指標と、県民の歯と口腔の健康状況を把握するため、宮城県が県内各市町村の協力を得て、平成 27 年 8 月から 11 月までの間に実施する 3 歳児健康診査時に保護者に対するアンケート調査を実施した。

2. 実施主体 宮城県

3. 調査対象 平成 27 年 8 月から 11 月までの間に 3 歳児健康診査を受健した保護者

4. 調査方法

- ① 県から各市町村に調査票を送付。
- ② 市町村が 3 歳児健診のお知らせ送付又は健診時に保護者へ配布。
- ③ 3 歳児健診時に保護者から回収。市町村担当者記入欄に記入。
- ④ 市町村から保健所へ送付。保健所で管内分を集計後、健康推進課へ送付。

5. 調査期間 平成 27 年 8 月から 11 月

6. 調査結果

(1) 協力人数(率)について

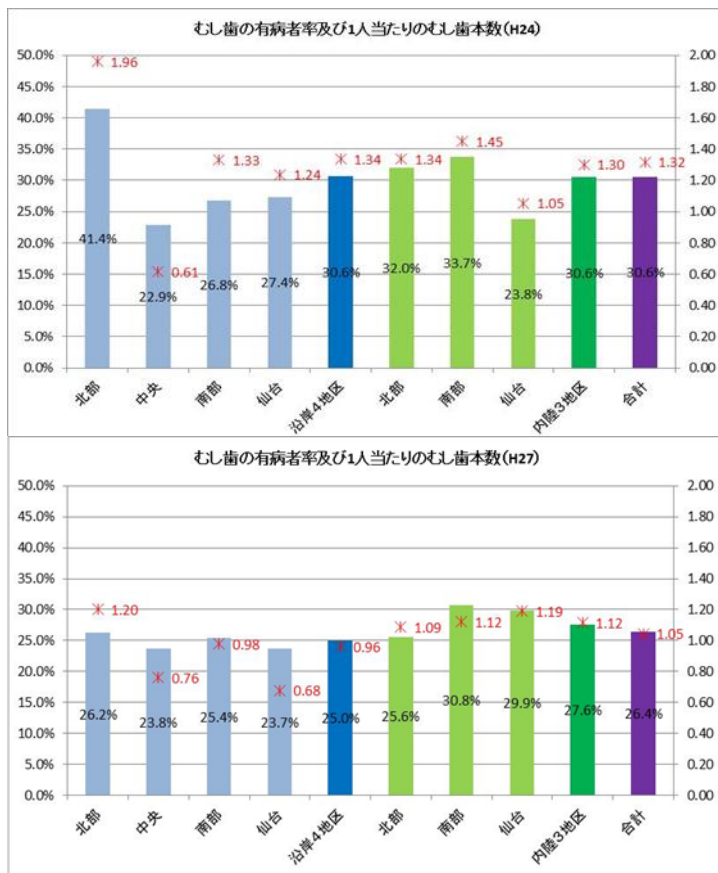
調査時の 3 歳児歯科健康診査の受診者数は 1,108 人で、そのうち調査の回答があったのは、全体で 884 人(79.8%)、沿岸部 399 人(78.7%)、内陸部 485 人(80.7%)であった。

地区	3 歳児 歯科健診 受診者数	回答 人数	回答率 (%)	処置 歯数 (本)	未処置 歯数 (本)	有病者 率 (%)	1 人あたり むし歯本数 (本)
沿岸部	北部	148	80.9	35	185	26.2	1.20
	中央	79	78.2	16	61	23.8	0.76
	南部	126	96.9	28	99	25.4	0.98
	仙台	46	49.5	12	51	23.7	0.68
	小計	399	78.7	91	396	25.0	0.96
内陸部	北部	305	88.7	91	283	25.6	1.09
	南部	100	76.9	41	105	30.8	1.12
	仙台	80	63.0	37	114	29.9	1.19
	小計	485	80.7	169	502	27.6	1.12
合計	884	79.8	260	898	26.4	1.05	

(2) むし歯の有病者率及び1人あたりのむし歯本数について

むし歯の有病者率と1人あたりのむし歯本数は、全体で26.4%、1.05本である。地区別にみると、沿岸部仙台は有病者率で23.7%、一人あたりのむし歯本数で0.68本と、どちらにおいても最も数値が低い。一方で、内陸部南部は有病者率で30.8%と最も数値が高く、また、沿岸部北部は一人あたりのむし歯本数が1.20本と最も高い数値を示した。

前回調査と比較すると、むし歯の有病者率及び1人あたりのむし歯本数のどちらにおいても、それぞれ数値の低下が見られる。7地区の合計値では有病者率が30.6%から26.4%まで低下し、1人あたりのむし歯本数も1.32本から1.05本にまで低下しており、口腔状況の改善があったものと考えられる。



【凡例】

- むし歯有病者率
- * 1人あたりのむし歯本数

(参考)

本調査は、各市町村の3歳児健康診査のうち1回のみ実施しているため、市町村により対象人数に差があることから、市町村ごとに集計・分析するのではなく、地域別に分けて分析することにした。その地区割りは以下のとおり。

	地区別	管轄保健所	該当区・市町村
1	沿岸部	北部	気仙沼市・石巻市
2		中央	塩釜市
3		南部	岩沼支所
4		仙台	仙台市
5	内陸部	北部	登米市・栗原市・大和町・大郷町・富谷町 大衡村・色麻町・加美町・涌谷町・美里町
6		南部	白石市・角田市・蔵王町・七ヶ宿町・大河原町 村田町・柴田町・川崎町・丸森町
7		仙台	仙台市

(3) 歯科保健行動について

① 歯みがき剤の使用状況について

歯みがき剤を使用していると回答したのは、全体で 80.1%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部中央の 73.4%，多いのは沿岸部北部の 88.5%であった。

前回調査と比較すると、各地区でほぼ横ばい、合計の値でも 81.5%から 80.1%とほとんど変化はみられなかった。

② フッ化物洗口について

フッ化物洗口をしたことがあると回答したのは、全体で 17.8%であり、地区別にみると最も少ないのは内陸部北部の 13.4%，多いのは沿岸部中央の 21.5%であった。

前回調査と比較すると、3地区で増加、3地区で減少、1地区でほぼ横ばいとなり、合計の値では、17.5%から 17.8%とほぼ横ばいであった。

③ フッ化物塗布について

フッ化物塗布をしたことがあると回答したのは、全体で 79.5%であり、地区別にみると最も少ないのは内陸部仙台の 69.6%，多いのは内陸部南部の 87.0%であった。

前回調査と比較すると、沿岸部北部を除く全ての地区で値が増加しており、合計の値も 72.5%から 79.5%に増加した。

④ シーラントについて

シーラントをしたことがあると回答したのは、全体で 8.5%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部北部の 5.4%，多いのは沿岸部仙台の 13.0%であった。

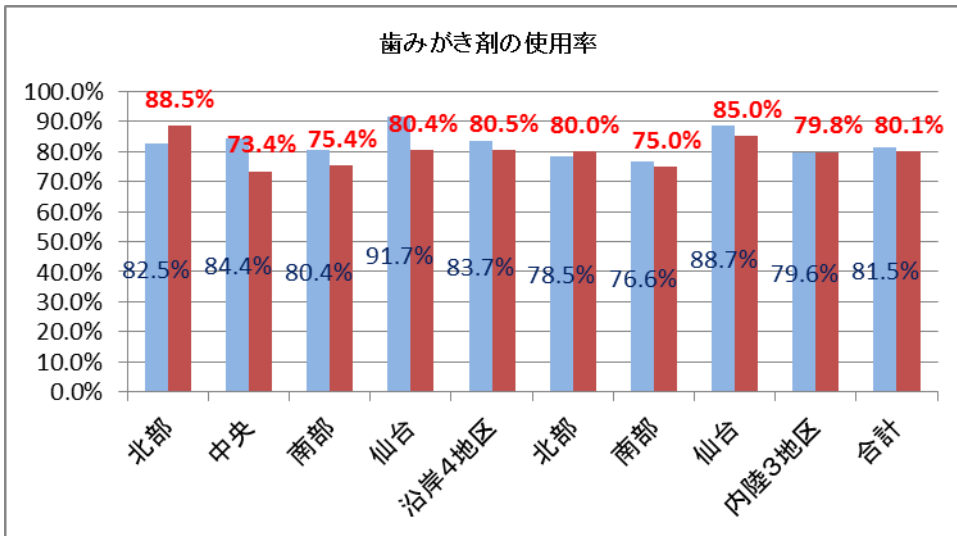
前回調査と比較すると、沿岸部仙台で顕著な増加がみられた一方で、内陸部南部及び内陸部仙台では値が大きく減少しており、合計の値では 8.2%から 8.5%とほぼ横ばいであった。

⑤ 定期受診について

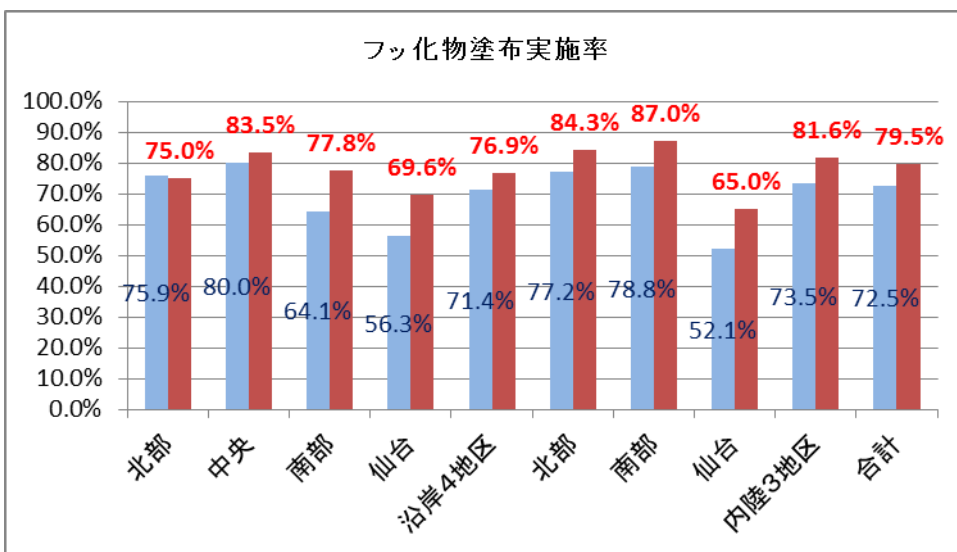
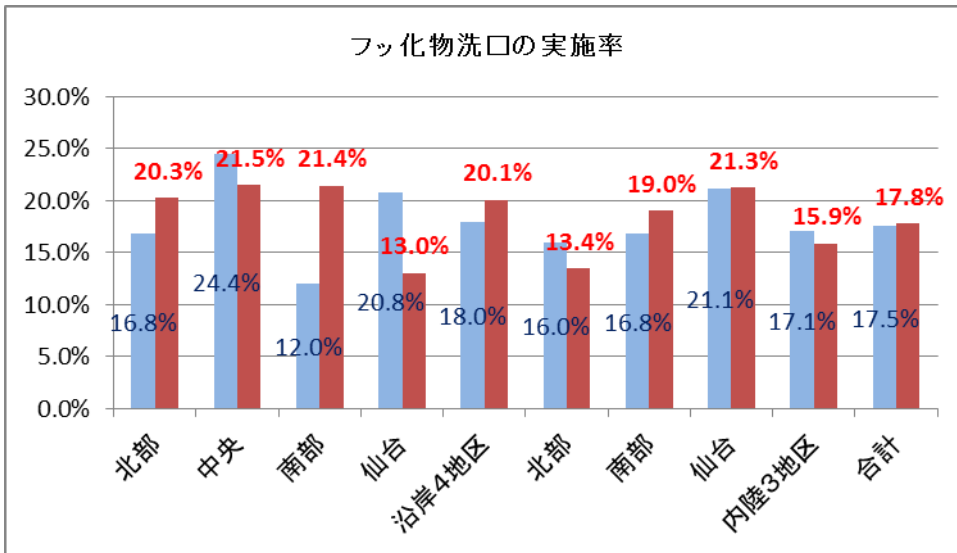
定期的に受診していると回答したのは、全体で 32.2%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部北部 20.9%，多いのは内陸部仙台の 42.5%であった。

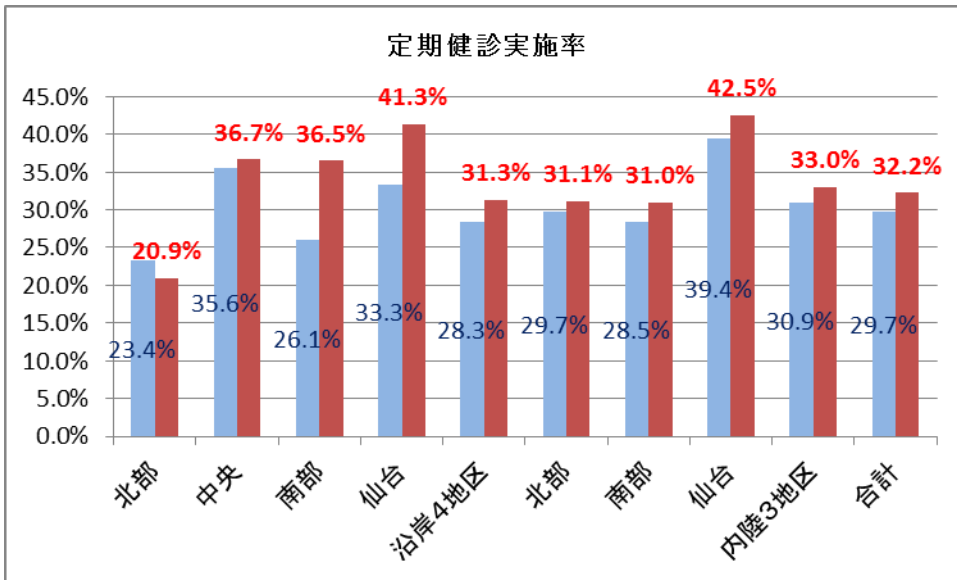
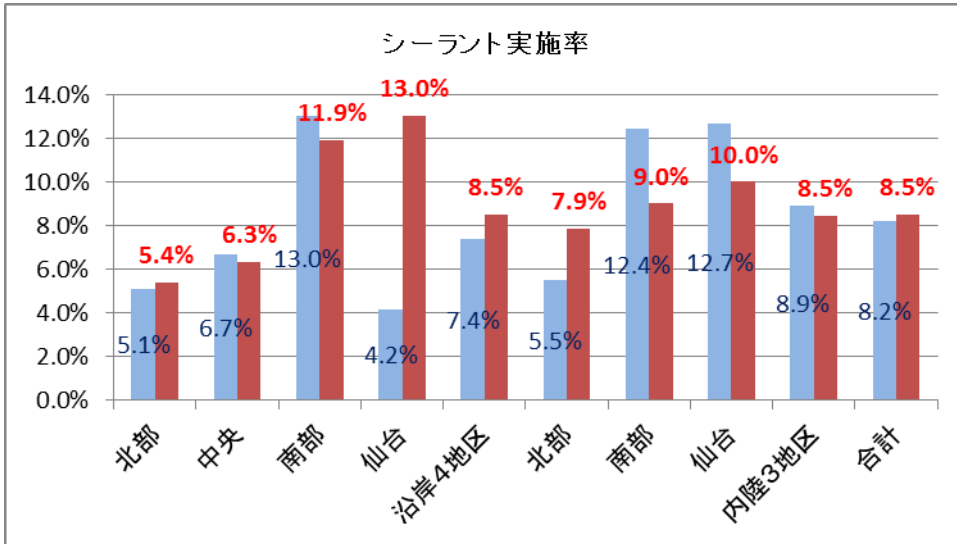
前回調査と比較すると、沿岸部北部を除く全ての地区で値が増加しており、合計の値も 29.7%から 32.2%に増加した。

地区		歯みがき剤使用		フッ化物洗口実施		フッ化物塗布実施		シーラント実施		定期的受診している	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
沿岸部	北部	131	88.5	30	20.3	111	75.0	8	5.4	31	20.9
	中央	58	73.4	17	21.5	66	83.5	5	6.3	29	36.7
	南部	95	75.4	27	21.4	98	77.8	15	11.9	46	36.5
	仙台	37	80.4	6	13.0	32	69.6	6	13.0	19	41.3
	小計	321	80.5	80	20.1	307	76.9	34	8.5	125	31.3
内陸部	北部	244	80.0	41	13.4	257	84.3	24	7.9	95	31.1
	南部	75	75.0	19	19.0	87	87.0	9	9.0	31	31.0
	仙台	68	85.0	17	21.3	52	65.0	8	10.0	34	42.5
	小計	387	79.8	77	15.9	396	81.6	41	8.5	160	33.0
合計		708	80.1	157	17.8	703	79.5	75	8.5	285	32.2



凡例 : ■ H24 年度
■ H27 年度





(4) 間食について

① 間食の回数について

間食の回数について、最も多かったのは2回の44.2%であった。3回以上間食しているのは、全体で29.2%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部仙台の21.7%、多いのは沿岸部北部の34.5%であった。

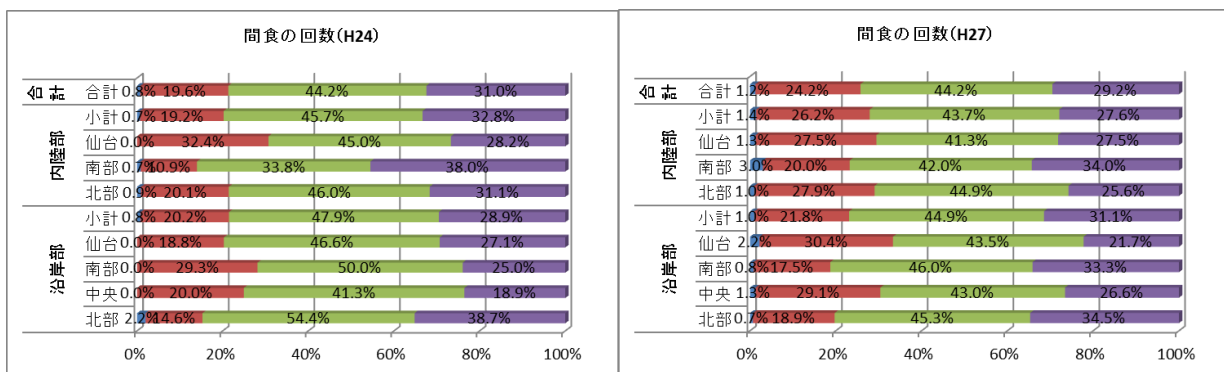
前回調査と比較すると、0回との回答が0.8%から1.2%と僅かに増加、1回との回答が19.6%から24.2%に増加、2回の回答が42.2%のまま横ばい、3回以上が31.0%から29.2%と減少した。

② 間食に注意している人について

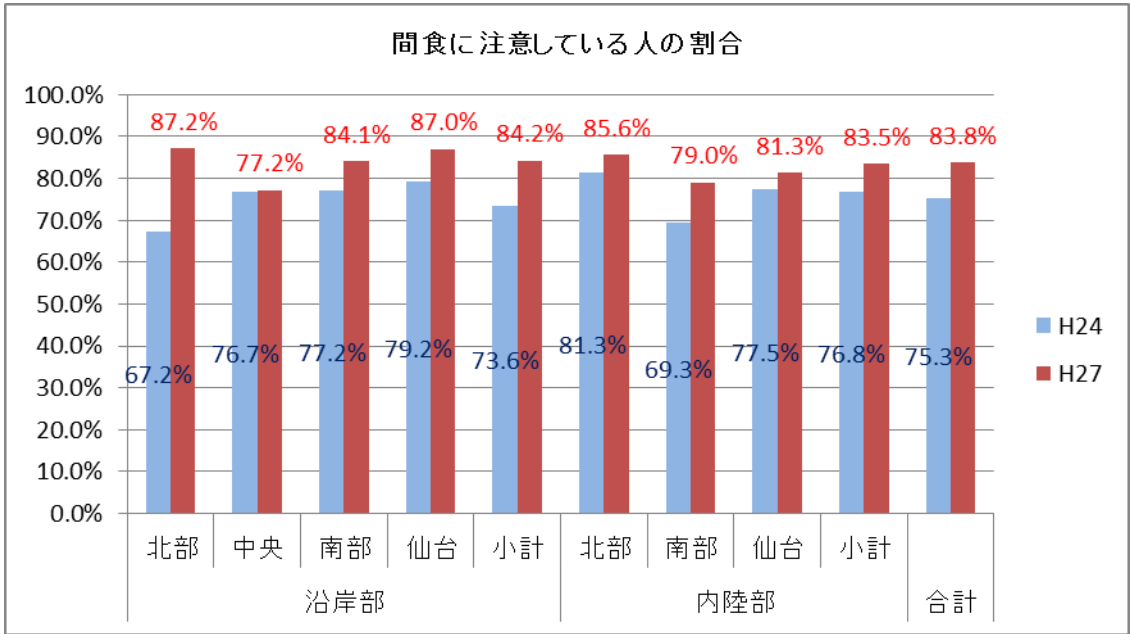
間食に注意していると回答したのは、全体で83.8%であり、地区別にみると少ないのは沿岸部中央の77.2%、多いのは沿岸部北部の87.2%であった。

前回調査と比較すると、沿岸部中央はほぼ横ばいであったものの、その他の地区では値が増加しており、合計の値では75.3%から83.8%に増加した。

地区		0回		1回		2回		3回以上		間食に注意している	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
沿岸部	北部	1	0.7	28	18.9	67	45.3	51	34.5	129	87.2
	中央	1	1.3	23	29.1	34	43.0	21	26.6	61	77.2
	南部	1	0.8	22	17.5	58	46.0	42	33.3	106	84.1
	仙台	1	2.2	14	30.4	20	43.5	10	21.7	40	87.0
	小計	4	1.0	87	21.8	179	44.9	124	31.1	336	84.2
内陸部	北部	3	1.0	85	27.9	137	44.9	78	25.6	261	85.6
	南部	3	3.0	20	20.0	42	42.0	34	34.0	79	79.0
	仙台	1	1.3	22	27.5	33	41.3	22	27.5	65	81.3
	小計	7	1.4	127	26.2	212	43.7	134	27.6	405	83.5
合計		11	1.2	214	24.2	391	44.2	258	29.2	741	83.8



【凡例】 ■ 0回 ■ 1回 ■ 2回 ■ 3回以上



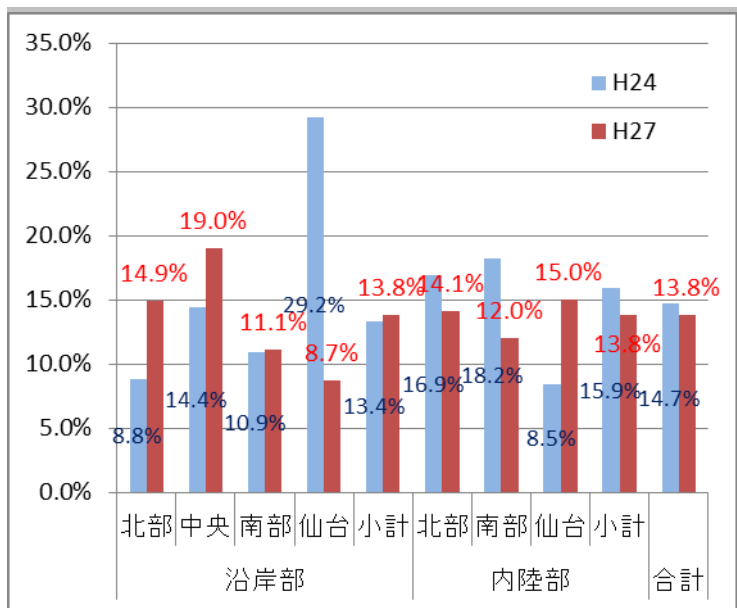
(5) 指しゃぶり等について

① 指しゃぶりについて

指しゃぶりをしていると答えたのは全体で 13.8%であり、数値が最も低かったのは沿岸部仙台の 8.7%、数値が最も高かったのは沿岸部中央の 19.0%であった。

前回調査と比較すると、沿岸部北部及び中央部で大きく増加したものの、沿岸部仙台及び内陸部南部のように大きく減少するなど結果にばらつきがみられ、合計の値では 14.7%から 13.8%に減少した。

地区	あり		
	人	%	
沿岸部	北部	22	14.9
	中央	15	19.0
	南部	14	11.1
	仙台	4	8.7
	小計	55	13.8
内陸部	北部	43	14.1
	南部	12	12.0
	仙台	12	15.0
	小計	67	13.8
合計	122	13.8	

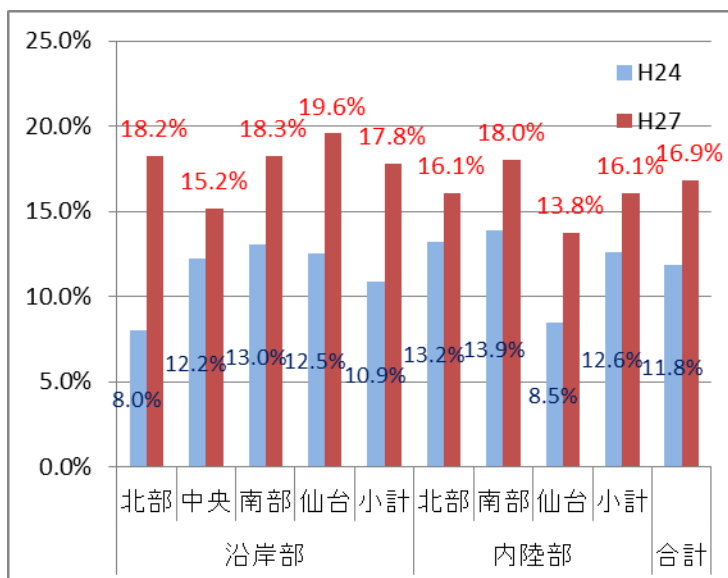


② 爪かみについて

爪かみをしていると回答したのは全体で 16.9%であり、数値が最も低かったのは内陸部仙台の 13.8%，数値が最も高かったのは沿岸部仙台の 19.0%であった。

前回調査と比較すると、全ての地区で値の増加がみられ、合計の値では 11.8%から 16.9%と増加した。

地区		あり	
		人	%
沿岸部	北部	27	18.2
	中央	12	15.2
	南部	23	18.3
	仙台	9	19.6
	小計	71	17.8
内陸部	北部	49	16.1
	南部	18	18.0
	仙台	11	13.8
	小計	78	16.1
合計		149	16.9



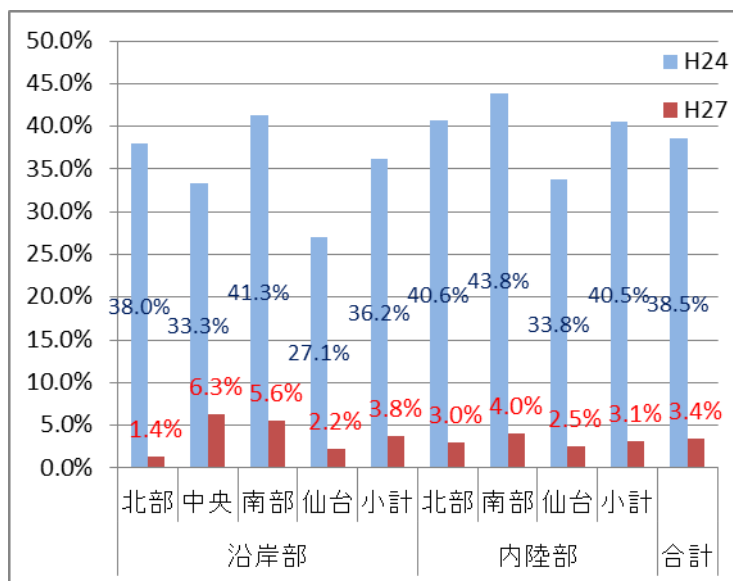
③ 母乳やほ乳瓶を使用したミルク等の摂取（卒乳）について

母乳や哺乳瓶を使用したミルク等の摂取をしていると回答したのは全体で 3.4%であり、数値が最も低かったのは沿岸部北部の 1.4%，数値が最も高かったのは沿岸部中央の 6.3%であった。

前回調査と比較すると、全ての地区で著しく値が減少しており、合計の値では 38.5%から 3.4%に著しく減少している。

なお、前回調査時は「卒乳をしているか」と質問し、「いいえ」と答えた者をミルク等の摂取をしている者として取り扱い、今回調査との比較を行っている。

地区		している	
		人	%
沿岸部	北部	2	1.4
	中央	5	6.3
	南部	7	5.6
	仙台	1	2.2
	小計	15	3.8
内陸部	北部	9	3.0
	南部	4	4.0
	仙台	2	2.5
	小計	15	3.1
合計		30	3.4



(6) 歯みがき指導等について

① 歯みがき指導について

歯みがき指導を受けたことがあると回答したのは、全体で 56.0%であり、地区でみると少ないのは内陸部南部の 48.4%，多いのは内陸部仙台の 62.5%であった。

前回調査と比較すると、沿岸部仙台を除く全ての地区で値が減少しており、合計の値では 61.1%から 56.0%に減少した。

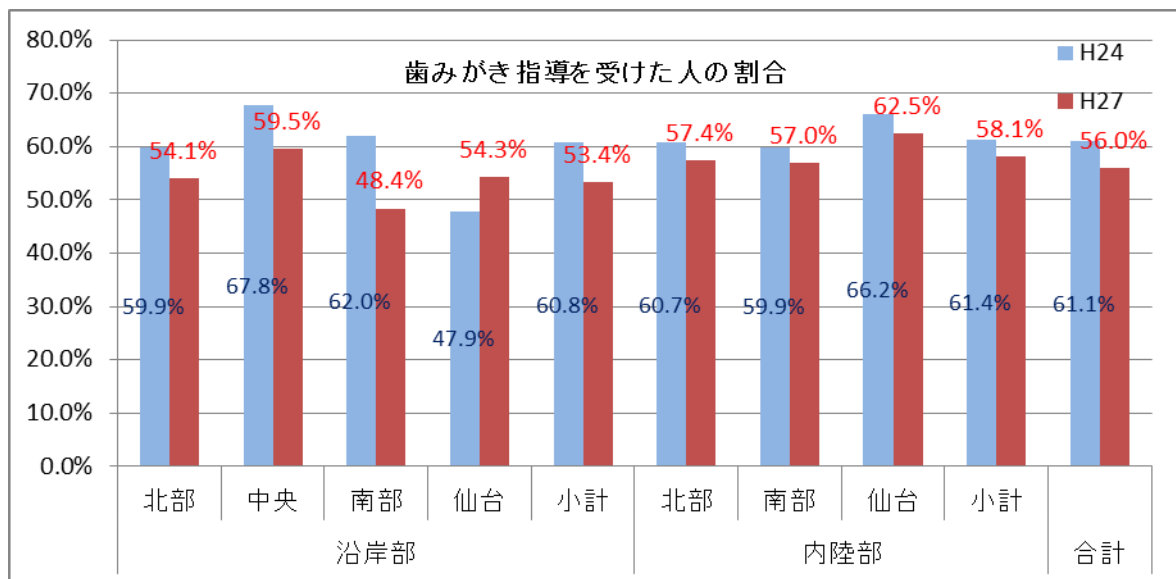
なお、今回調査時のみ「健診日当日分は含まない」旨を明記している。

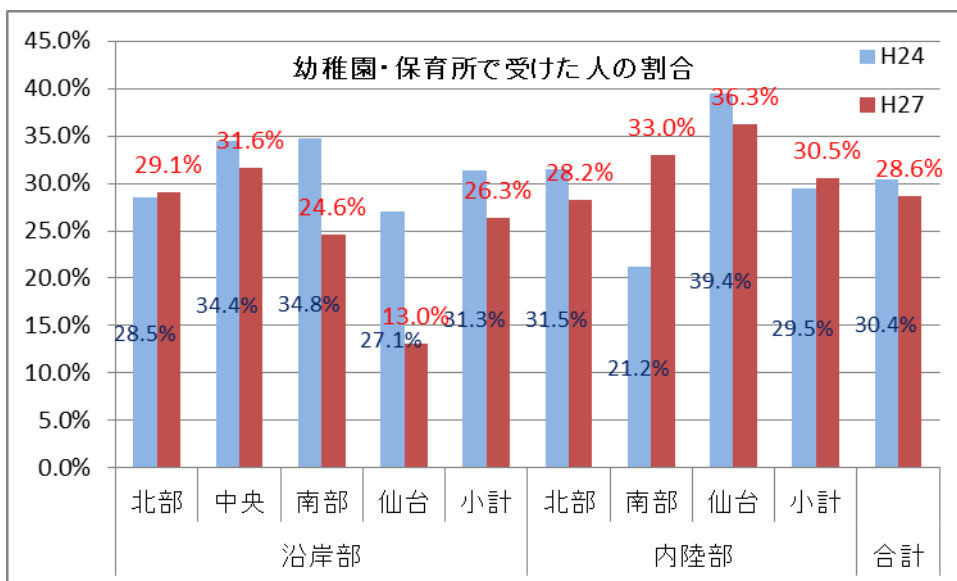
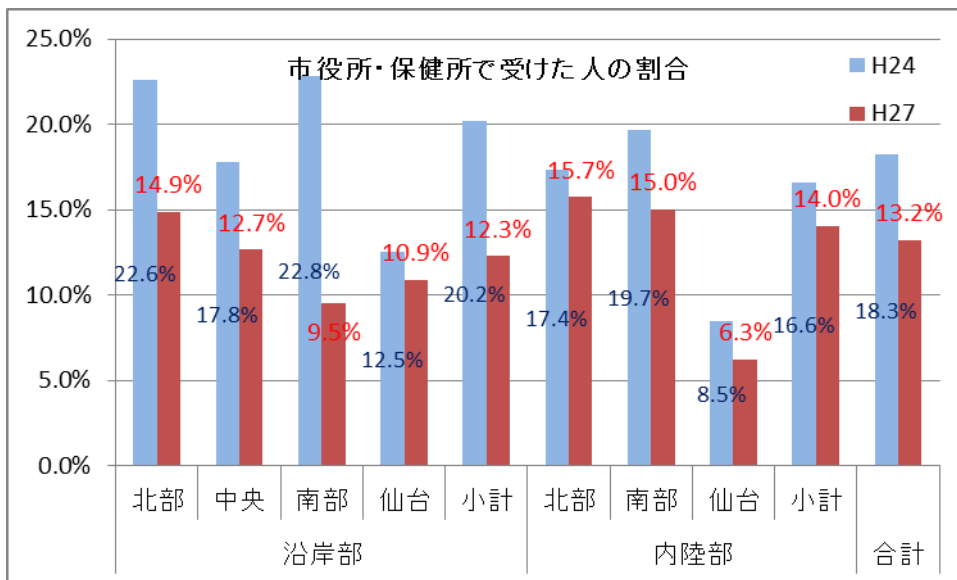
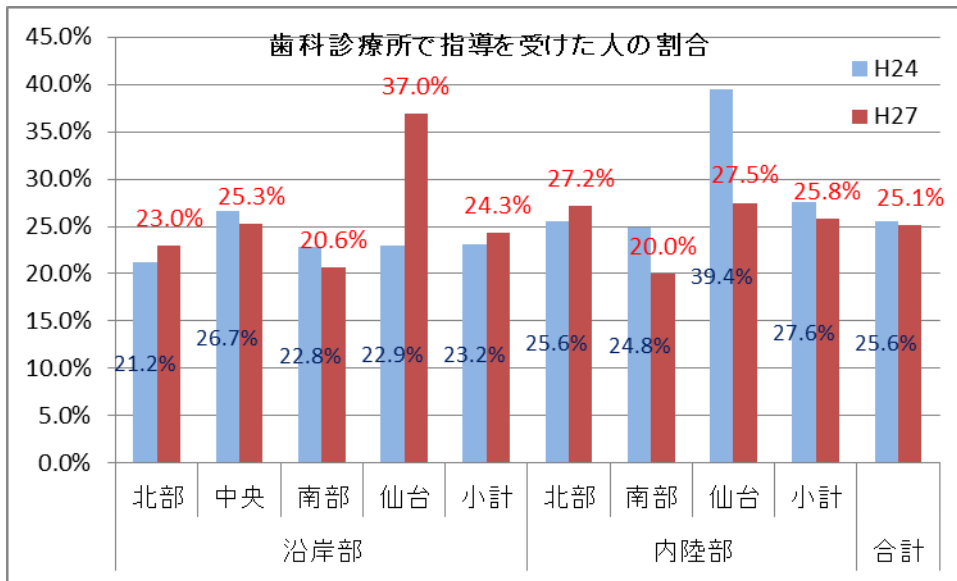
② 指導を受けた場所について

指導を受けた場所で多いのは、幼稚園・保育所の 28.6%であり、次に歯科医院の 25.1%であった。

前回調査と比較すると、歯科診療所との回答の値（合計）が 25.6%から 25.1%とほぼ横ばいとなったものの、市役所・保健所及び幼稚園・保育所との回答の値（合計）については、それぞれ 18.3%から 13.2%，30.4%から 28.6%と減少した。

地区	歯みがき指導あり	指導を受けた場所							
		歯科医院		市町村・保健所		幼稚園・保育所			
		人	%	人	%	人	%	人	%
沿岸部	北部	80	54.1	34	23.0	22	14.9	43	29.1
	中央	47	59.5	20	25.3	10	12.7	25	31.6
	南部	61	48.4	26	20.6	12	9.5	31	24.6
	仙台	25	54.3	17	37.0	5	10.9	6	13.0
	小計	213	53.4	97	24.3	49	12.3	105	26.3
内陸部	北部	175	57.4	83	27.2	48	15.7	86	28.2
	南部	57	57.0	20	20.0	15	15.0	33	33.0
	仙台	50	62.5	22	27.5	5	6.3	29	36.3
	小計	282	58.1	125	25.8	68	14.0	148	30.5
合計	495	56.0	222	25.1	117	13.2	253	28.6	





7. まとめ

今回の調査では、むし歯の有病率や一人あたりむし歯本数が減少し、歯科保健行動もフッ化物塗布をしたことがある人や定期的を受診している人、間食に注意している人の割合が増加し、3回以上間食している人が減少するなど前回調査と比べ全体的に改善が見られる。

しかし、前回調査と同様に地域差が見られ、むし歯の有病率及び一人あたりむし歯本数が最も低い沿岸部仙台は、シーラントの実施や定期受診をしている人、間食に注意している人の割合が高く、3回以上間食している人の割合が低い。一方むし歯の有病率が最も高い内陸部南部や一人あたりむし歯本数が最も多い沿岸部北部は歯みがき剤の使用やシーラントの実施、定期受診をしている人の割合が低く、3回以上間食している人の割合が高くなっている。沿岸部北部は前回調査でも一人あたりむし歯本数が多く、3回以上間食している人の割合が最も高かった。

このようにむし歯の状況に歯科保健行動が影響していると考えられることから、良好な歯科保健行動が取れるよう、様々な機会を捉えて啓発を強化するとともに市町村、保育所、幼稚園等が連携した取組を更に推進することが必要である。また、フッ化物応用については、前回調査とほぼ同様の結果であることから、更なる推進のため課題等を整理し、歯科医師会、市町村等と連携して取り組むことが必要である。